とクマが出会った時のクマの反応の話― 負傷しているクマと子連れのクマ以外は非戦闘的である―等は，日本版シートン動物記のようだった。

9月8日。最後の日は自由観察である。民宿での聞き取りや温泉集落の調査など，みんな個性豊かに興味深い調査を行なった。調べようと思うことは案外多いようである。短時間ながら自由な行動をとれたことは有意義だったと思う。実際に歩いて土地の人と接触できることは，書物からは得られない妙味といえよう。今回の巡検では調査に時間的余裕があったこと，夜は斎藤先生を囲んでみんなで和気藹藹と楽しい時間が持てたことが良かったと思う。この巡検が私達の地理学を学ぶ上でのステップになれば幸いである。

（斎藤先生指導　2年　宮野　佳子）

巡 検 ―富士をたずねて―（10月3～4日）

10月3・4日は，私達1年生の始めての（八王子の1日巡検はあったが）巡検であった。

1日目は生憎の雨で，集まった1年生の顔にも緊張の色が見られる。今回の参加者は，20人＋院生の方お2人である。指導の先生は浅海先生である。

新宿から中央高速を抜け，1時間程で，そろそろ車窓観察開始。桂川段丘・扇山などの観察。揺れるバスの中で，熱心に？メモをとる姿が見られた。しばらく行くと，猿橋につき，本格的な観察開始となる。このころは，雨がいっそう激しくなり，桂川の流れもかなり急であった。狭い道で一列になって先生の説明を聞くが，雨音と川の音でかきけされ，メモも雨に流されて，なんとも悲惨な状況であった。猿橋を出発し，少したつと，道の両側にカラマツ林がひろがっている。この付近が剣丸尾である。ここを抜けて，五合目につき，昼食をとる。かなりの寒さで，みなぶるぶるふるえている。ドライブインの横で，小御岳のなりたち，スコリアなどの説明を聞き，上部にひろがる森林限界の様子や雲の動きを観察。そのあと小御岳神社に立寄る。新しいきれいな神社であるが，この付近は完全に観光地化していて，山にいるという感じが全くしない。巡検の移動には便利なスバルラインであるが，富士山が，その美しさと存在感を失うことがあってはならないと思った。

次に西湖畔の足和田村（根場部落）に行った。根場部落は昭和41年の台風25・26号による土石流で全壊した場所であり，復旧の後も，人々が戻ってこなかった場所だ。荒涼とした光景にも自然の厳しさが表われていた。現在は，人々は近くで新しい根場部落をつくり，民宿村として発展している。

根場部落から10分位で，今夜宿泊するホテルにつく。部屋割りをしたあと夕食をとり，7時から，今日の観察事項に関する熱心な質問が出て，なかなか有意義であった。第1日目も無事終わり，皆もそれぞれの部屋にひきあげて，トランプ，おしゃべり，テレビ映画，今日のまとめをしている。とはいっても，中学・高校時代の修学旅行のときのようなわけにもいかず，明日のために，早めに就寝した部屋もあったようである。第1日目は，雨にたたられたが，初めて巡検に来た私達には，猿橋の河岸段丘，桂川の濁流．熔岩の柱状節理，丸尾，スコリア，根場など，すべてのものが，興味をひき，

これから4年間，地理科での生活をささえてくれるものではないかという気がした。後で提出しなくてはならないレポートのためではなく，自分の勉強（学問などとはおこがましくていえぬが）のため，血となり肉となるものだと思ったのである。

2日目も相変らずの曇り空。前夜は，大学院のお姉さま方とトランプに興じた人，映画を見た人などいろいろ。さてこの日は，まず紅葉台へ。その登りの道の苦しかったこと！そして，下りの途中で見た青木ケ原の樹海は壮観の一言に尽きる。そのほか午前中は，熔岩が冷えて固まる時に，ガス体が噴出したりしてできた風穴の一つである富岳風穴，富士山麓の湧水を利用した猪ノ頭養鱒場，それから白糸の滝へ。昼食をとった後，滝と滝つぼを見学して，悪天候のため予定を変更して畜産試験場へ行き，いろいろと説明を聞いた。（そういえば，その朝にしぼったばかりだといっていた牛乳は，おいしかったなあ……）それから一路東京へ。7時頃，みんな元気に新宿到着。

初めての巡検で，要領がわからず，1泊2日でわりとあわただしい感じだった。それにお天気のせいで，宝永山や大沢崩れを見に行けなかったのが残念だった。富士山の裾野なんかを走っていると，「日本も広いなあ」という気がすごくする。巡検は，もちろん勉強なのだと思うが，いろいろな土地へ行って，いろいろな場所を見てまわれるのは楽しいことだ。（ただし，あとのレポートはなかなかこたえるけれど……。）

（浅海先生指導　1年　岩田　美佐子・浜野　桂子）

甲府盆地巡検（10月3～6日）

前期試験の終わった翌々日の10月3日，私たち3年生は甲府盆地巡検に出発した。主なテーマは扇状地の農業的土地利用と農業集落の立地についての考察である。

まず，10時50分に中央線勝沼駅前に集合。あいにく小雨がパラついていたが，あたり一面にぶどう畑が広がっているのに驚く。ぶどうの丘センターで，所長さんから概況を話していただく。勝沼のぶどう栽培は千年近い歴史を持っており，現在は耕地の98％が樹園地であるという。生食用のほか，ワイン製造や観光農園の経営も盛んであるとのことであった。昼食後，マイクロバスで一宮町へ。ここは，勝沼のぶどうに対して桃栽培が特色であるが，町役場の方の話では，最近はぶどうが伸びてきており，桃と半々ほどになっているという。その後，山梨大学工学部附属の無機材質研究所と発酵研究所を見学する。前者は，水晶はじめ人工貴金属の研究所，後者は，ぶどう産地の特色を生かしたワインやブランデーに関する研究所である。フランスから取り寄せたというブランデーの蒸留装置や，地下に貯蔵されたたくさんのワインが印象的であった。甲府市内の宿舎に泊まる。

4日。9時に旅館を出，マイクロバスの中から翌日調査を行う集落を観察しつつ，昼ごろ白根町役場へ。白根町は，御勅使川の氾濫による扇状地に位置し，戦前は養蚕地帯であったが，戦後果樹が急増し，桃，ぶどう，サクランボなどの果実の町となっている。午後は，市之瀬台地を訪れ，その地形を観察した後，富士川砂防工事事務所の方の案内で実際のダム工事現場を見学。私たちにふだんなじ